



潤心啓発

令和7年2月3日
青梅市立泉中学校
学校だより第30号
校長 神田 哲男

泉中HP <https://www.city.ome.tokyo.jp/school/izumi-j/>



「教育活動に関わるアンケート」の結果について

12月の「教育活動に関わるアンケート」に御協力いただき、誠にありがとうございました。同時期に全校生徒を対象にとった「学校生活に関するアンケート」の結果とできるだけ比較できるように掲載しました。双方とも①「当てはまる」②「やや当てはまる」③「やや当てはまらない」④「当てはまらない」⑤「わからない」の5段階で評価をお願いしました。今回は、肯定的な回答と否定的な回答の二つに分け、⑤「わからない」は掲載しませんでした。

アンケートの結果から、答えにくく「わからない」と回答しなければならない質問も多数あったようです。大変御迷惑をおかけしました。来年に向けて質問内容も見直したいと思います。

1 学力向上に関する項目

① 全ての学習の基盤となる資質・能力の育成

生徒質問：「泉中の授業は、協同学習(ペアワークや4人組)を行っていると思う」

保護者質問：「学校は互いに認め合う心を育むため、授業をはじめ全ての教育活動を通じ、ペアワークや4人組など互いに寄り添う指導の充実を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	95.7%	4.3%
保護者	69.3%	4%

生徒質問：「授業中、他の生徒の発言や発表をよく聞いている。」

保護者質問：「学校は授業規律を徹底し、安心して授業が受けられ、考える楽しさ・学ぶ楽しさを実感させる授業の工夫・改善に努めている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	93.2%	6.8%
保護者	68%	17.4%

- ◆ 本校では、「傾聴」を中核とした言葉の指導を行っている。これは教師だけでなく生徒も同様で、授業では学び合いの授業「協同学習」を中心に行うことで、「聴き合う関係」づくりから、だれ一人取り残さない学びを目指している。保護者にも見てわかるような、「聴く」ことを重視した生徒に寄り添う指導や授業改善を徹底する必要がある。

② 主体的・対話的で深い学びの追究

生徒質問：「総合的な学習の時間の授業で学んだことは、中学校卒業後の進学や、社会の中で働くことなど、自分の将来について自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」

保護者質問①：「授業を通して、それぞれの課題に対し、解決に向け主体的に学ぶ姿勢を育んでいる。」

保護者質問②：「学校は総合的な学習の時間(調べ学習・発表)や体験活動(校外学習・移動教室・職場体験・働く人の話を伺う会・高校の先生の話の伺う会・宿泊行事等を通して、自分の生き方を考えるキャリア教育の充実を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	86.7%	13.3%
保護者①	69.3%	12%
保護者②	85.3%	8%

- ◆ 本校が「協同学習」について研鑽を積んでから6年目になる。全教員が学期に1回の管理職による授業観察や教師がお互いに見合う年間1回の研究授業で研修を行い、「協同学習」を通じて生徒が主体的に考えを深めたり広げたりする授業改善を進めている。またこれを生かしてキャリア教育につなげている。今後もよりよい授業の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいく必要がある。

③ 校内研究の成果検証（生徒への質問）

質問①:「泉中の授業は、協同学習(ペアワークや4人組)を行っていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
61.0%	34.7%	3.1%	1.2%

質問②:「泉中の授業では、課題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じるような工夫をしている。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
47.7%	44.5%	7.5%	0.3%

質問③:「泉中の授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
53.6%	38.3%	6.5%	1.6%

質問④:「泉中の授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
35.8%	47.1%	14.0%	3.1%

質問⑤:「泉中の授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
67.0%	28.1%	3.7%	1.2%

質問⑥:「泉中の授業では、生徒が理解したことや考えたことを他の生徒や先生に説明する時間があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
44.6%	44.5%	7.8%	3.1%

質問⑦:「泉中の授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてくれていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
36.8%	44.2%	15.3%	3.7%

質問⑧:「泉中の授業では、PC、タブレットや電子黒板、書画カメラなどの ICT機器を活用されていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
71.1%	25.2%	2.8%	0.9%

質問⑨:「泉中の授業では、生徒が自分の考えを発表する場で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立ての仕方などを教えてもらっていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
42.4%	45.2%	9.3%	3.1%

質問⑩:「授業や学級活動、委員会活動、部活動などで、生徒が話し合いを生かし、互いのよさを生かして解決方法を決める場面があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
57.7%	33.6%	5.9%	2.8%

- ◆ 本校では、今年度と来年度の2年間で、青梅市研究指定校として研究を行っている。学力向上委員会では、「習得→探求→発信」の流れを大切に授業を行っている。特に発表では『学習の質を高める3つの内言』として「①他に考え方はないか」「②本当にこれでよいか」「③分かりやすいか」を基に発表内容を考えている。生徒の実感にも表れている様子である。

④ 学習習慣の確立

生徒質問①:「学校の授業の復習をしている。」

生徒質問②:「自ら計画をたてて勉強している。」

保護者質問:「保護者としてお子さんの家庭学習に強く関心を持ち進路実現に向け積極的に関わっている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒①	44.5%	55.5%
生徒②	53.2%	46.7%
保護者	86.6%	10.7%

生徒:「あなたは平日、平均何時間くらい家庭学習をしていますか」(塾や補習での学習時間は含めない。)

	2時間以上	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
生徒	7.5%	11.5%	27.7%	26.8%	26.5%

- ◆ 自ら計画的に行う家庭学習が本校の大きな課題である。適度な宿題の質と量の調整をするなど、生徒の家庭学習の習慣化を目指し、また生徒が取組の成果をより一層実感できるよう今後とも工夫を重ねていく。

2 健全育成に関する項目

① いじめ問題への対応

生徒質問:「学校へ行くのが楽しい。」

保護者質問:「学校はいじめ調査を定期的に行うとともに、日々の生活の変化を把握し、いじめや悩みの早期発見、早期対応を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	80.8%	19.2%
保護者	66.6%	10.7%

生徒質問:「友人関係がうまくいっている。」

保護者質問①:「学校は生徒指導に対して、関係諸機関と連携し組織的な対応や指導を行っている。」

保護者質問②:「学校は生徒指導に対して、生徒への聞き取り及び対応・指導を早期に適切に行っている。」

保護者質問③:「学校は交流教育(学校行事や昼休みなどの支援学級との交流活動)を通して互いの違いを認め合う活動の充実を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	93.9%	6.1%
保護者①	49.3%	8%
保護者②	74.7%	14.6%
保護者③	78.7%	8%

- ◆ 100%の生徒が学校に行くのが楽しいと肯定的にとらえてほしいところであることから、80%は低いと感じる。また、学校の体制も改善する必要があることが保護者の意見からもわかる。生徒、保護者共に安心して学校に通える、通わせられるよう、学校が「いじめを起こさせない環境づくり」の策を発信する必要がある。安心できる友人がいること、居場所があることは心の安定につながり、いじめの起こらない環境づくりに欠かせない。
- ◆ 休み時間の教師と生徒との対話の促進や、「相談しやすい・話しやすい雰囲気づくり」により人間関係を深めていく。

② 不登校に対する取り組み

生徒質問:「自分のクラスは安心できるクラスだと思う。」

保護者質問①:「学校はスクールカウンセラー等と連携し、1年生全員面談による早期発見や不登校を含めた配慮を要する生徒への対応・指導をきめ細かく行っている。」

保護者質問②:「学校は適宜、保護者・地域に情報を発信し、学校の様子を伝える努力をしている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	88.8%	11.2%
保護者①	66.6%	1.3%
保護者②	92.0%	6.6%

- ◆ 本校の不登校は、自信がもてず、環境に適応できないことに起因する場合が多い。よって、良さを認め、ほめることにより、個々の生徒の自信を高め、内面の成長を促すことに指導の重点を置いている。自己肯定感、変化の激しい社会の中で自分のよさを生かして挑戦を行っていく源となる。また、自殺や引きこもりを防止する上でも重要である。
- ◆ 今回の結果によると、安心できるクラスであるという生徒の肯定的な意見が88.8%では低いの、100%安心できるクラスづくりを目指したい。

③ 社会において自律的に生きる力の育成

＜自己有用感の醸成＞

生徒質問①：「清掃や給食当番などの日常の班活動、行事などに積極的に取り組んでいる。」

生徒質問②：「自ら進んで挨拶をしている。」

保護者質問①：「学校は生徒会中心に挨拶運動を行い、仲間や地域の関わりをもっている。」

保護者質問②：「学校は清掃活動や地域メッセンジャー等のボランティア活動を積極的に行っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒①	96.0%	4%
生徒②	88.8%	11.2%
保護者①	81.3%	5.4%
保護者②	65.4%	14.7%

- ◆ 「挨拶」と「掃除」が本校の伝統であると生徒は自覚をしている。これが今回のアンケート結果にも表れている。しかし、日頃あまり慣れていない人への挨拶や自ら率先して掃除分担を考えて行動しているかという疑問である。社会に出て通用する力を身に付けられるよう、さらに率先した行動をさせていきたい。

＜規範意識の醸成＞

生徒質問：「欠席や遅刻をしないように努力している。」

保護者質問：「学校はセーフティ教室や日常の指導を通して、情報端末の正しい使用法や交通安全・薬物乱用防止など社会規範の徹底や防災意識の向上を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	94.7%	5.3%
保護者	92.0%	2.7%

生徒質問：「身だしなみや、不要物をもってこないなど学校のきまりを守っている。」

保護者質問①：「保護者として、お子さんの家庭での生活習慣(望ましい行動様式)の確立に、積極的に関わっている。」

保護者質問②：「学校は日数や内容など適切に部活動指導を行っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	93.8%	6.2%
保護者①	86.6%	10.7%
保護者②	74.7%	1.3%

- ◆ 生徒の規範意識は高いと感じ、数字にも表れている。これは学校の粘り強く継続的な指導はもちろんのこと、家庭の御協力があつての賜物である。正しいことを堂々とする大切さを浸透させ、社会に出て通用する力の育成を目指したい。